

市民活動集団カムカム弾との議会報告会で寄せられた意見について（令和5年6月協議）

（テーマ）

- ・結婚から産前産後、子育てについて

| No | 市民活動集団カムカム弾からの主な意見 | 常任委員会での協議内容 |
|----|---|--|
| 1 | <p>定住促進支援制度について、白山ろく地域の空き家をリフォームすることを検討したが、費用は新築と同程度かかることが多いにも関わらず、空き家改修の最大補助額は新築（白山ろく地域定住奨励金）の半額の50万円となっている。試算した上で現在の金額になっているのか理由を知りたい。</p> | <p>空き家改修補助金につきましては、平成25年度に白山ろく地域の空き家対策として設立したものです。制度をつくる際に、県内の他の自治体等を参考にしまして、金額を設定したもので、費用の2分の1で、最大50万円を補助するものです。その後、平成29年度からは市内全域に範囲を拡大しています。令和5年度からは所有者も対象とするということで、制度を拡充したものです。</p> |
| 2 | <p>①少子化対策について、費用面での補助や支援が目立つが、子育てや子供のいる生活や家庭が充実して楽しいなど、子どもを産み育てる喜びを感じられるような施策を充実させてほしい。</p> <p>②出産して子育てする中で、窓口相談に行っても有料のファミリーサポートを使ってほしいと言われるが、地域で子供をみてもらえる制度はできないか。また、チラシを渡されるだけでは読めないで、健診の際でもファミリーサポートの紹介などを行ってほしい。</p> | <p>①市では、子供の健やかな育ちと、保護者による、子育てを地域や社会全体で支えていく環境の整備を目指し、子ども・子育て支援事業計画を策定しています。主な事業として、プレパパ・プレママ講座の開催、一時預かり事業の充実、児童館・児童センターの整備、子育てサークルの支援、夜間の広域急病センターの設置など、子供を産み、育て喜びを感じていただけるよう、白山市らしい子育て施策に取り組んでいます。</p> <p>②ファミリーサポートセンターは、育児の援助を行いたい方及び育児の援助を受けたい方が会員となり、育児の相互援助活動を通じて、地域全体で子供の子育ての支援を行う制度です。健診の際に情報が必要な方に対し、個別で案内をしているほか、市ホームページ、広報はくさんや、はくさん子育て便利帳などでもご案内をしています。</p> |
| 3 | <p>行政には子育てや健診のカウンセラーがいると</p> | <p>検診にカウンセラーは出務しておら</p> |

| | | |
|----------|---|---|
| | <p>思ったが、答えが返ってこない。対応が形式的で冷たく感じる 때가 多い。</p> | <p>ず、保健相談は保健師が担当しています。市では、いきいき健康課、子育て世代包括支援センターをはじめ、各種相談機関が連携し、寄り添い型支援に職員が懸命に取り組んでいるところでございますが、一対一の面談の中でこのように感じられたということで、改めまして、職員一同襟を正し、お母さまやご家族に寄り添った対応に努めてまいります。</p> |
| <p>4</p> | <p>お母さんたちの関わり合いができる場（親子の広場）があるのはいいが、みんな精神的に元気とは限らず（子供が病気、障害、子育ての悩みで疲弊している、不登校）、そういった親子を救うことのできる場所や仕組みが充実できればよい。</p> | <p>市内では、育児や子育ての悩みを相談できる子育てひろば、子育て支援センター、保育所や児童館などがあります。保育士などの保育の専門職員が、内容に応じた相談を行っています。また、発達に関しては発達相談センター、障害に関しては障害福祉課など、各機関と連携をとり、悩みごとなどの相談に応じています。いつでも気軽に相談できる電話などでも相談を行っています。</p> |
| <p>5</p> | <p>不登校や学校に行きづらい子と親の相談窓口は寄り添った対応をしてほしい。</p> | <p>各学校に対しては、不登校や不登校傾向の児童生徒、保護者の思いを聞き、寄り添った対応を行うよう周知しているところでありますが、市内の相談窓口についても、再度、寄り添った対応を行っていくよう、確認していきたいと思っています。また、相談体制としては、各学校には、県より任用されたスクールカウンセラーが週に1回配置されています。</p> <p>市といたしましては、中学校に派遣相談員を7名、市の教育センターにスクールソーシャルワーカー2名、臨床心理士1名、子供総合相談室に臨床心理士1名を常駐させ、児童生徒に加え、保護者が速やかに相談できる体制の充実に努めています。なお、各家庭においては、教育相談リーフレットを配布し、周知を図っているところでございます。</p> |

| | | |
|---|--|--|
| 6 | <p>小学校の授業で、答えた児童の意見に同意するフレーズ（同じです、そう思いますなど）を、児童みんなで言ったりするが、違う意見を持った子が自分の考えに自信が持てなくなり自己否定に陥るのではないか。</p> | <p>小学校では、共感的な人間関係づくりの視点から、相手意識を持って、自然に自発的な反応をすることを目指し、段階的に、聞くことの指導を行っています。以前は、「同じです」「そう思います」という反応が多く見られましたが、最近では、「付け加えがあります」や「他の考え方があります」、「他の方法があります」、「違う意見があります」など、反応もいろいろ増えてきています。また、授業づくりにおいては、多様な考えを認め、失敗の許される授業、どの子の考えも大切にされる授業を目指し、努めているところです。</p> |
| 7 | <p>学校給食について、能美市、加賀市は無料化となっている。他市を見習い、ぜひ給食費の無償化を実現してほしい。地産地消も重要だ。</p> | <p>継続的に多額の費用を要する取り組みであり、財源確保が課題となっています。事務事業の見直しを行い、財源確保について検討しているところであり、実現に向けて道筋をつけるべく取り組んでいきます。地産地消と食育につきましても、今後も引き続き取り組んでいくこととしています。</p> |
| 8 | <p>学校における性教育は難しい面が多くあるが、助産師や専門の講師に授業をしてもらったりすることは大変重要だ。性教育を通じて一人一人の理解を深めることができるので、ぜひ授業をしてもらいたい。</p> | <p>小学校中学校ともに、性教育については、保健体育や特別活動等の授業の中で、教育課程に位置付けられ、授業が実施されているところです。中学校や一部の小学校の中には、助産師等、専門の講師を招いての授業が実施されています。保護者も参観できる学校もあります。小学校では、養護教諭が入って、各学年に応じた授業を展開している学校もあります。今後も性教育を通じて、科学的知識を理解させることにとどまらず、自分や他者を尊重し、思いやる心を醸成していきたいと考えています。</p> |